

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人 里山コミッション

- ・ 通常総会（開催年月日 令和6年6月23日）
 - ① 令和5年度事業報告及び収支決算について
 - ② 理事の選任について
 - ③ 理事長の報酬額について
- ・ 第1回役員会（開催年月日 令和6年6月23日）
 - ① 令和6年度事業計画及び予算について
- ・ 第2回役員会（開催年月日 令和6年8月26日）
 - ① 令和6年度事業執行状況について
 - ② カラダにやさしい里山農業栽培塾について
 - ③ 定住フォーラムの開催について
 - ④ 赤名湿地帯の環境ボランティア育成イベントの受託について
- ・ 第3回役員会（開催年月日 令和7年2月22日）
 - ① 令和6年度事業の執行状況について
 - ② 令和7年度事業及び予算について
 - ③ 定住フォーラムの YouTube 公開について
 - ④ 飯南の旅（ダーツ交流会）について
 - ⑤ 理事の互選について

1 事業成果

設立趣旨である町内企業等の事務支援や企業や民間団体と住民をつなぐ中間支援サービスなど多様な形態での地域支援活動を継続して実施した。飯南町総合振興計画においても中間支援組織の重要性を掲げられており今一度、設立趣旨の原点に返り事業推進を行った。

4月1日（業務移管は10月1日）から飯南町定住関係事業のうち移住者等の相談業務とお試し住宅の管理業務を町からアウトソーシングを受けた。設立当初に掲げた町業務のアウトソーシングが初めて実行された。13年を経過しての実施ではあるがこれまで緻密に定住者との意見交換会を実施するなど実績を積んだ成果である。その意見交換会は5年目を迎える。毎月15日を「コメタバ」としUIターン者、地元農家の方なども参加し「何でも放談」を継続実施した。11月15日飯南町長様や県内民間企業トップの方をお招きし、定住者を増やすにはどうすればよいかの「定住フォーラム」を開催した。住環境整備の重要性、子育てしやすい環境づくりなど新たな発

想での斬新な施策展開が必要との認識で一致した。「飯南町定住支援センター」の看板を掲げ、様々な機器・機材整備等を行ってきたが県外へのPR不足は認めざるを得ない状況にありポスター作製、ネットでの情報発信などの取り組みが必要である。空き家バンク事業においては、良質な登録物件が少なく、町内に点在する空き家をバンク登録いただく施策を打ち出すことも重要であり、登録された場合の優遇処置、家屋修繕箇所の助成支援など他の自治体にはない新たな施策を町に提案した。

一年間を通じた移住希望者との面談等で共通することは、移住の選択視として「自由な時間が多く、暮らせる程度のお金儲けできる働き場があること。(常勤は望まず。)」また、「自分で米や野菜を育て、美味しい食卓を楽しみたい。」の農地借入ができることがポイントとされたい。そこで当法人として7年度から「農つぎ事業」に取り組むこととした。後継者がいない高齢農家の方の米づくり等をお手伝いしながら(労力提供)米づくり技術を習得し3年後、貸手と借手として農地を引き継ぐ又は、売買することもできるシステムをモデル年として取り組む。現在、来島地区新聞配達業務に島根県立農業大学校生を配達員として雇用しており、水田畦畔の草刈り作業なども受託できるよう進めている。都市部からの援農隊も含め、農地を守り、継承できる仕組みづくりに取り組んでゆく。定住関連事業の最後に、無料職業紹介所開設について報告する。無料職業相談員指導員資格は取得したが当法人の基本財産(500万円以上の預金)不足で開設できなかったことを報告しておく。

近年、食物アレルギーの方が多くなり10人中2人が該当するようになっている。

また、健康志向の方も多くなり農薬など不使用の農産物が注目されている。昨年に続き「カラダにやさしい野菜栽培実践里山塾」を創設し、ジャガイモの植え付けや野菜の種まきなどの指導を行ったが継続指導ができなかったことから、7年度は有機栽培農家へ希望者を派遣することにした。(定住相談時の農業体験も合わせて)

有機農業に取り組む市町村も増えている。美味しいく体に優しい野菜を町内直売所及びiマルシェ並びに世田谷区民祭り、たかのぼし商店街イベント(広島市)などで少量ながらも販売を行っている。今後の課題として、多くの仲間をどのようにして増やしてゆくかを検討中である。

地域の暮らしを支える生活支援サービスとして墓掃除作業や空き家管理作業を行っており年々、受託件数は多くなっている。町内から撤退された事業所(工場)の物件管理、県内外所有者の家周辺の清掃など、従事者を定年退職リタイア者のスモールビジネスとして位置づけ事業PRをしている。働き手の方の不足もあることから「ご縁つなぎ」と称し、賛助会員登録による企業・個人の方へのマッチングサービスを開始3年、参加団体が数社になった。また、これから増加する空き家の処分についてビジネスとして捉え事業展開を検討する。なお、県内不動産業者との業務連携協定を締結しており年度内に1件の取引があった。

故熊本世田谷区長様のご尽力により友好市町村のみが参加資格のある世田谷区民

祭に参加、8月真夏の馬事公苑で町内製品の紹介、飯南町のPRを行った。有機野菜を中心に販売をしたが即日完売となり健康志向の高まりやアレルギー対応商品への転換などを肌で感じたところである。また、町推奨作物として取り組んでいるサツマイモの宣伝も兼ねて「冷しいも」商品を販売し、これも完売であった。有機栽培など特色のある商品以外は厳しい状況にある。令和3年から連携している練馬区NPO法人「楽膳倶楽部」との交流は昨年11月、清宮理事長が町長様を表敬訪問され一層、交流が深まった。子供食堂への飯南米の提供、飯南商品の委託販売などを行っていただいている。広島市内のショップ（一福緑井店内）は、一福様ご協力により店舗内に飯南商品の売り場を設置いただき、ブルーベリージャム・クッキーなど特色のある飯南商品を販売させていただいている。たかのぼし商店街では、飯南産米の販売を商店街内で行っていただいている。たかのぼし夏祭、商店街年末セーを実施し飯南町のPRにも努めている。JR伊丹駅構内にある「伊丹市観光物産館」では、とんぼら餅など購入いただいております物産館との協議により4社8品目を常時販売いただいている。

企業など町内各種団体等の支援事業は当法人の大きな自主財源となっており経理事務の支援、販路先の紹介斡旋など一層、中間支援業務を強化することとしている。

来島地区新聞配達に関して、山陰中央新報社などから人材発掘の要請があり、中間支援として配達員を当法人で確保し来島地区の新聞配達が継続されたところである。このようなケースがこれから多くなると考えられる。「地域をみんなで守る」そのリーダーとして当法人の役割が大きくなっている。

新規事業として、スポーツダーツによる食と健康づくりを進めている。中国労金寄付金事業に採択され、高齢者から子供たちの交流場づくりに貢献している。公民館を中心にっており、町内一円の普及を目指して3月交流会を開催した。

島根県自然環境課から運営支援要請があり「赤名湿地帯管理指導者育成イベント」を当法人主催で開催した。7年度も継続事業とされている。また、湿地帯の通常管理についても地元自治会が高齢化により管理できなくなったため当法人に受託されることとなっている。しまなみやまなみ街道ネットワーク会議発行のイベント冊子の編集校正を当法人で委託している。また、町内の民宿の管理も受託している。

建築物の石綿含有調査に係る資格講習会の実施機関として労働局の指定を受けた。昨年2回（松江市・飯南町）の講習会を実施した。収益の大きな事業であり、他の講習会等の実施なども検討してゆきたい。

最後に、三次市にある「飯南町交流物産館」の経理事務等の受託について、少し触れる。組合員からの要請があり令和3年6月から経理事務及び人事管理及び県内商品等の仕入れなどを行っている。売上は、野菜等を中心に着実に増加し4千5百万円を超え当法人が経理事務等受託時の概ね2倍強の売上高となった。冬場の野菜不足を補うため、松江市内農家からキャベツ等を仕入れ販売するなどアドバイザーの発送と当

法人の人脈によるところが大きい。今後も、特色ある地域農産物栽培に力を入れ、前述した「カラダにやさしい野菜栽培実践里山塾」での取り組みを土台に栽培の輪を広げ「カラダにやさしい野菜コーナー」を満載にしたいと思う。

生命地域宣言の再構築が今こそ必要な時と考える。世界人口増加による食糧難、異常気象による食糧不足、サプライチェーンの崩壊による我が国への穀物等輸入量の減少など、四季を感じることができる希少な地域飯南町は、農産物栽培に適した地域である。昨今の米不足など食糧備蓄は重要な課題とされている。その先頭に立ち、持続可能な食糧基地の地域イメージを発信しようではないか。令和7年も若い方々を中心に安心安全な農産物栽培や加工品開発など産業・起業お越しに組みたいと考える。地方交付税に依存する割合の高い小規模自治体は行政業務のワークシェアリング化などにより経費削減を進めることとなる。その受け皿として過疎高齢化の進む中山間地域の生活・産業振興に組み地域発展に寄与したいと考える。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲及び人数	
生活等支援 サービス事業	生活・事務支援事業 (草刈り等 30 件)	6.4～ 7.3	町内	25 名	38 名	
地域団体支援事業	ヤマトイモ生産組合支援事業	6.4.1～ 7.3.31	町内	事務局 1 名	栽培支援	
	町民味噌加工支援事業	7.1.26～ 7.3.2	町内	加工従事者 7 名 事務局 1 名	味噌加工者 48 名	
	新聞配達事業	6.4.1～ 7.3.31	町内	配達員 2 名		
	赤名湿地帯管理事業	6.10.26	町内	作業従事者 2 名	管理作業員育成 13 名	
	建築物石綿調査講習会	7.2.12	松江市	受講者	管理者 1 名	

		7.3.11	町内	53 名 受講者 4 名	管理者 1 名	
	他団体等支援事業	6.4.1～ 7.3.31	町内 県外	事 務 員 ほ か 2 名	2 団体等 1 団体	
	スポーツダーツ事業	6.4.1～ 7.3.20	町内	公 民 館 主 事ほか	交流会参加者 10 名	
販路拡大・ 産業活性化 事業	イベント事業 ① 世田谷区民祭 ② 練馬交流 ③ 日比谷島根館 ④ たかのぼし応援 販売促進事業 ① 伊丹観光物産館 ② 広島ショップ	6.8.3～4 6.4.6 6.4.5 6.6.14～ 6.12.20 常設 常設	東京都 東京都 東京都 広島市 伊丹市 広島市	4 名 2 名 2 名 2 名 1 名 1 名	10 事業者委託 5 事業者委託 5 事業者委託 14 事業者委託 4 事業者委託 3 事業者委託	
定住事業 (町管理事 業)	定住相談、お試し住宅 管理等	6.4.1～ 7.3.31	町内	4 名	相談件数 361 件 お試し住宅 貸し出し日数 87 日	
総務管理	経理処理事業ほか	通年		1 名		

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者 の範囲及び人数	
	なし					